

[発行日]=2000年3月7日

[本文]

手元に八枚の切符がある。北極圏のヨックモックまでの往復に、これだけの切符が要るとは想像もしなかった。更に、ウプサラの近くで人に会う約束があり、ストックホルムで切符を買い足した。計十枚である。

汽車の場合、一週間以上前に予約し、それに学生割引があると、通常の半分以下で、切符が手に入る。おまけに、バスの分も一緒に買える。国鉄の電話予約は、全国どこからでも同じ番号で、フリーダイヤルになっている。電話代の心配をしないで、何度でも確認できるので、異国人の私には都合がよい。夜も遅くまで受け付けてくれるし、コンピューターでの予約もできる。

ストックホルムまでの往復の切符は、すぐに予約できた。ただ、これもよく分からないのだが、同じ特急の「X2000」でも、ティダホルムを昼前のバスで出て、フェーブデから昼過ぎに乗る汽車だと、片道四百七十五クロネだが、一時間早い汽車で百三十クロネの切符があるという。

もちろん安い方を予約したが、それだと朝八時半のバスに乗らなくてはならない。翌朝十時にヨックモック着だから、二十六時間の旅になる。少しでも遅く出発したかったが、これだけ値段の開きがあれば仕方がない。「X2000」はこの国で一番早い汽車なのだが、それが時間帯によって、なぜこれほどまでに安くなるのか、どうにも分からない。

予約番号をもらい、翌日街のタバコ店に切符を取りに行くよう指示された。タバコ屋さんでは、店の人が予約番号を機械に打ち込むと、すぐに切符が出てきた。駅のない街が多いので、こういう仕組みになっている。

さて、北の方は今年の一月に民営化されたばかりで、対応が混乱していたようで、出発前に思わぬ時間をとられた。国鉄に尋ねても、別会社なので何も分からないという。困って、友人に相談すると、街に一軒だけある旅行代理店に頼んでは、と教えられた。

しかし、そこでも北の切符は取れないという。代理店で教えてもらった民営の会社の電話番号に、何度も電話を入れてみた。いつも同じテープの声で、何を言っているのか分からない。

友人のニンナに聞いてもらおうと「予約はすべてキャンセルされました。明後日の午後から受け付けを開始します」と言っているという。「コンピューターの操作ミスで、予約データが消えちゃったんじゃないのかな。新しく出来たばかりの会社だし、こんなことは珍しくないよ」と笑っている。

後日、再び彼女が電話してくれた。日時はほぼ決めていたので、それに近い時間帯を

頼んだが、選択の余地は全く無かった。一日二本しかない列車のうち、一本だけが私の旅行予定に見合うものだったからである。

切符は翌日、速達で学校に送ってきた。今度は、あまりの早さに驚いた。代金は郵便局で払い込む。速達代二十クローネと郵便局の手数料二十クローネが加算された。

たとえば、九州から北海道まで行き、帰りは東京に寄って帰るような旅行である。それで往復一万七千円ほどだから、かなり安い。急行くらいの速さの汽車である。